

① 正覚寺

正覚寺は、永正2年(1505)に加賀国に建立されたのが始まりです。明治16年に現在地に移転しました。寺宝の蝦夷錦赤地牡丹紋様七条袷裳(市指定有形民俗文化財)は、アイヌとの交易によって持ち込まれたものです。



② 鹿嶋神社

鹿嶋神社は、寛文11年(1671)に村と村との境界争いを鎮めるために創建されたといわれています。ご神体の石像は、はじめは小田清水でお祀りされていましたが、鹿嶋神社の創建により今の場所に移りました。



③ 善正寺

善正寺は、明応7年(1498)に開創しました。現在の本堂は明治24年頃の再建です。寺院入り口には直径1m余りの梵鐘があり、たいへん良い音で地域の人々に愛されていました。太平洋戦争で供出され、今は鐘楼跡の標柱が立っています。



④ 街道の松

街道の松は、文政年間(1818~1831)に、相川の加藤家の祖先である正左衛門の弟・正治郎氏の篤志によって、五穀豊穡と通行人の安全を



④ 長泉寺

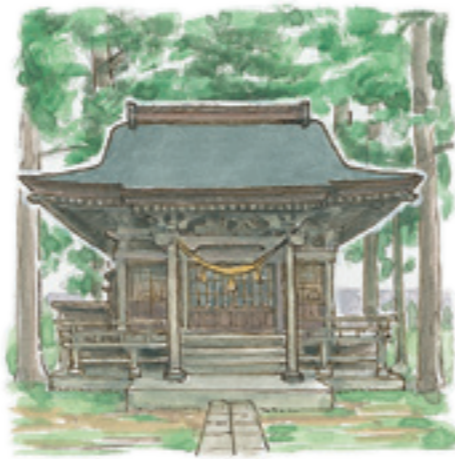
長泉寺は、慶安3年(1650)に開創されました。明治になって、長泉寺の近くに椿台城が設営され、佐竹氏一門の沓岐守家が守り、戊辰戦争を戦いました。境内には沓岐守家の家臣が多く眠っています。

また、太平洋戦争中の昭和18年には、訓練として椿台の開墾に従事した満蒙開拓青少年義勇訓練所の生徒たちの宿舎となりました。



⑤ 平澤神社

天保9年(1838)、秋田藩10代藩主佐竹義厚が鷹狩りに訪れた時、家臣が急に病にかかりました。平澤神社にお参りしたところ、たちまち家臣は元気になり、翌年、藩主は神社奉行に命じて社殿を改築したといわれています。



⑥ 総墓

総墓は、伊藤家一族が同一の墓に埋葬されています。このような形で埋葬されているものは全国でも珍しく、現在でも継続されていることは、非常に貴重なものです。現在の総墓は、文政8年(1825)に建立されたと思われます。市指定史跡



⑦ 米女鬼文庫

明治36年、青年教育の一環として、石井露月が自ら購入した図書などを寄贈し、米女鬼文庫を創設しました。個人では本の購入さえままならなかった時代、多くの青年がこの文庫を活用しました。今も多くの人が訪れています。



【雄和の地名の由来】

高尾山(昔は高雄山と書きました)の峰と、雄物川の流れにちなみ、また、郷土の融和を願って名付けられました。

⑦ 八幡神社

ご神体の僧形八幡は、市指定有形文化財に指定されており、享保2年(1717)に平野勤太郎寄贈とされています。その形態は近畿地方で製作されていたものと類似点が多く、当時の伝播行路をさぐる上で非常に貴重です。



【川添地区について】

川添地区は、明治22年に椿川・田草川・芝野新田・下黒瀬・平沢・石田・妙法の旧村が合併してできました。いずれの村も、雄物川および岩見川の川添いに立地していたことから、川添と命名されました。

⑧ ヴィラフローラ／里の家

レストランのほか、雄和地区の特産品を購入することができます。里の家は、登録有形文化財。こちらのご利用は要予約 ☎018-886-2715



⑨ 秋田国際ダリア園

夏から秋に小高い丘一面に咲き乱れる色鮮やかなダリアが見事です。球根の予約ができ、育て方も教えてもらえます。

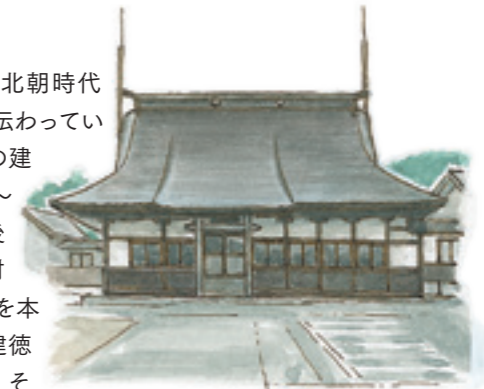


⑨ 玉龍寺

玉龍寺は、始めは国龍寺という寺号でしたが、いつの頃からか玉龍寺となりました。戊辰戦争で本堂が焼失し、しばらく仮本堂でしたが、大正6年に現在の本堂が再建されました。本尊の阿弥陀如来像は、戊辰戦争の時に住職が米俵に入れて土中に埋め、避難したことにより難化を免れました。

⑩ 相川寺

相川寺は、南北朝時代に開創されたと伝わっています。南朝元号の建徳年間(1370~1372)に、越後村上(新潟県村上市)の耕雲寺を本寺とし、当初は建徳寺といました。その後、元和8~9年(1622~1623)に相川寺となりました。毎年6月28日の祭典では、住職が本殿で経をあげ、神官が前堂で祝詞をあげる神仏混交の行事が行われます。



⑪ 秋田県立中央公園

陸上やテニスなど様々な大会が開催されるスポーツ施設が広がっています。スカイドーム(人工芝屋内グラウンド)の外観は大きな「かまくら」をイメージしており、夜は屋根全体がうすらと光り幻想的です。日本最大級のフィールドアスレチックのほか、キャンプやバーベキューなど一日ゆっくり過ごせます。



⑫ 秋田空港

東京、大阪、名古屋、札幌の路線が就航しています。駐車場は2時間以内は無料です。お気軽に秋田のお土産をお求めできます。



⑬ 松連寺

建久年間(1190~1199)にあった平尾鳥城の鬼門(北の方角)を守る寺院ともいわれています。本尊の阿弥陀如来は、平尾鳥城の時代からといわれています。



【種平地区について】

種平地区は、旧村の種沢・平尾鳥から一文字ずつを選んで地区名となりました。

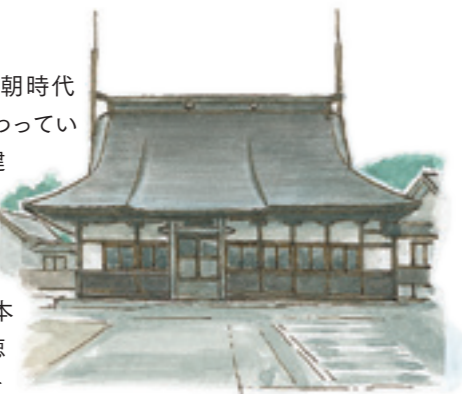
⑭ 浅野甚兵衛の墓

浅野甚兵衛は、秋田藩士浅野清右衛門の弟。寛文6年(1666)に帰農を決意し、旧下川大内村高尾国見峠の柵の台の開墾を目指しました。さらに、雄物川の川向かいの荒れ地(現在の向野)開墾



⑩ 相川寺

相川寺は、南北朝時代に開創されたと伝わります。南朝元号の建徳年間(1370～1372)に、越後村上(新潟県村上市)の耕雲寺を本寺とし、当初は建徳寺といいました。その後、元和8～9年(1622～1623)に相川寺となりました。



毎年6月28日の祭典では、住職が本殿で経をあげ、神官が前堂で祝詞をあげる神仏混交の行事が行われます。

⑪ 秋田県立中央公園

陸上やテニスなど様々な大会が開催されるスポーツ施設が広がっています。スカイドーム(人工芝屋内グラウンド)の外観は大きな「かまくら」をイメージしており、夜は屋根全体がうっすらと光り幻想的です。日本最大級のフィールドアスレチックのほか、キャンプやバーベキューなど一日ゆっくり過ごせます。



⑫ 秋田空港

東京、大阪、名古屋、札幌の路線が就航しています。駐車場は2時間以内は無料です。お気軽に秋田のお土産をお求めできます。



⑬ 松連寺

建久年間(1190～1199)にあった平尾鳥城の鬼門(北の方角)を守る寺院ともいわれています。本尊の阿弥陀如来は、平尾鳥城の時代からといわれています。

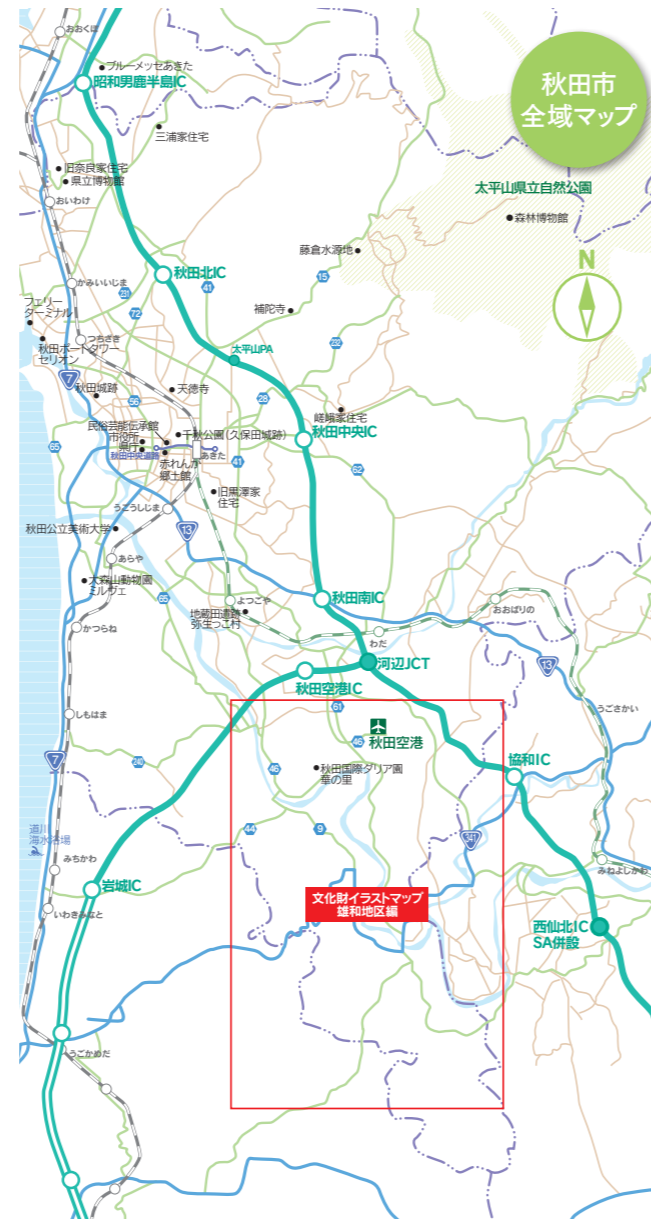


【種平地区について】

種平地区は、旧村の種沢・平尾鳥から一文字ずつを選んで地区名となりました。

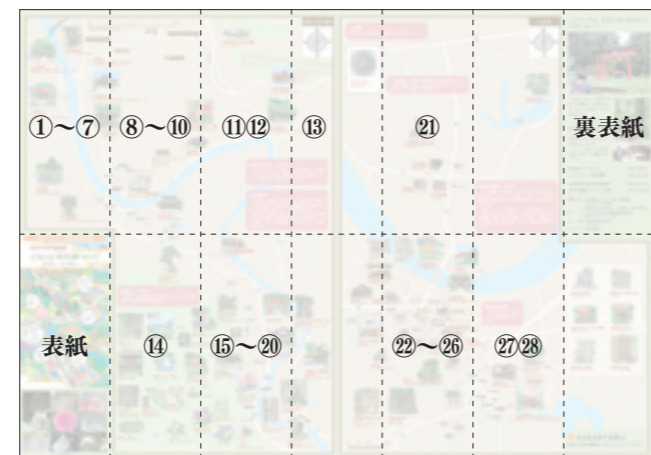
⑭ 浅野甚兵衛の墓

浅野甚兵衛は、秋田藩士浅野清右衛門の弟。寛文6年(1666)に帰農を決意し、旧下川大内村高尾国見峠の柵の台の開墾を目指しました。さらに、雄物川の川向かいの葎れ地(現在の向野)開墾



※解説文についている番号は、マップ表面のイラストについている番号に対応しています。

番号の位置(マップ表面)



⑮ 普門院

普門院は、元々新波の通称親父森にあった観音堂でした。現在地に移転したのは江戸時代中期と考えられます。慶応4年(1868)に戊辰戦争の炎で本堂が焼失しました。その後何度か建て替えられ、現在の本堂は昭和31年に再建したものです。梵鐘は、戦時下において機転を利かせ、火の見櫓の鐘と取り替

⑯ 新波神社

新波神社は、社伝では大宝2年(702)創始で石行(旧大正寺小学校地)に菅波明神で



⑰ 竹の花の一本杉

竹の花の一本杉は、竹の花運動公園の入口近く、道路の傍らに一本だけ生えています。樹高25m、幹回りは2.4mほどあります。寛政年間(1789～1801)に本荘市赤田(現在の由利本荘市)の長谷寺を開山させた是山和尚が植えたものと伝えられています。水陸の交通の要所



ることは、非常に貴重なものです。現在の総墓は、文政8年(1825)に建立されたと思われます。市指定史跡



時代からといわれています。

【種平地区について】

種平地区は、旧村の種沢・平尾鳥から一文字ずつを選んで地区名となりました。

⑭ 街道の松

街道の松は、文政年間(1818~1831)に、相川の加藤家の祖先である正左衛門の弟・正治郎氏の篤志によって、五穀豊穡と通行人の安全を祈念して植えられたものと伝えられています。

当初は、道路の両側に数十本あって見事な松並木を形成していましたが、現在は3本を残すのみです。市指定史跡



⑮ 秋田県農業試験場

秋田県農業試験場は、明治24年に創設され、平成12年に現在地へ移転しました。農家所得の向上と経営安定化、農業の振興に貢献する技術の開発に努めています。予約すれば見学できます。

⑯ 高尾神社里宮の大杉

高尾神社の里宮の境内にある木です。境内にはほかにも古い杉はありますが、参道の両側に並ぶ特大の2本が天然記念物に指定されています。

この杉には、征夷大将軍坂上田村麻呂が戦勝祈願のために植えたという言い伝えがあります。市指定天然記念物



⑰ 米女鬼文庫

明治36年、青年教育の一環として、石井露月が自ら購入した図書などを寄贈し、米女鬼文庫を創設しました。個人では本の購入さえままならなかった時代、多くの青年がこの文庫を活用しました。今も多くの人が訪れています。



⑱ 露月山廬書齋

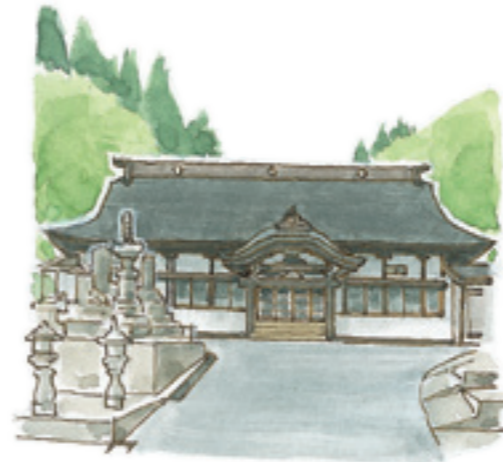
明治32年に帰郷した石井露月が、翌々年現在地に住居兼医院を新築したときに一室として設けた書齋です。この書齋には、露月が愛用した机、筆記用具をはじめ、生涯師と仰いだ正岡子規の写真や関係書籍、愛読書、その他身の回りの品々が保存され、露月生前の足跡を遺す書齋です。市指定史跡。(非公開)



⑲ 玉龍寺

玉龍寺は、始めは国龍寺という寺号でしたが、いつの頃からか玉龍寺となりました。

戊辰戦争で本堂が焼失し、しばらく仮本堂でしたが、大正6年に現在の本堂が再建されました。本尊の阿弥陀如来像は、戊辰戦争の時に住職が米俵に入れて土中に埋め、避難したことにより戦火を免れました。



⑳ 石巻の清水

高尾山から流れる冷水の一つで、石井露月が愛した清水です。



㉑ 浅野甚兵衛の墓

浅野甚兵衛は、秋田藩士浅野清右衛門の弟。寛文6年(1666)に帰農を決意し、旧下川大内村高尾国見峠の柵の台の開墾を目指しました。さらに、雄物川の川向かいの荒地(現在の向野)開墾に着手しました。以来、20年以上かけて田畑や宅地を完成させ、ため池の築造を計画し、甚兵衛堤を完工させました。



㉒ 御番所跡

雄和地区を流れる雄物川を大正寺川と呼んでいた藩政時代、亀田藩はこの地に御番所を設置し、雄物川上り船より船荷役銭を徴収していました。これを運上といい、この役所を御番所といいました。

亀田藩岩城領では、浜通りの塩収入銀が8貫(30キログラム)程度に比べ、運上役銀は24貫(90キログラム)に達する高財源であったといわれています。

運上を徴される船舶は100隻を超えるといわれ、沿岸は物資の運輸で賑わいました。



【大正寺地区について】

新波神社はかつて荒波明神といい、大聖不動明王を合祀し大正寺と改号しました。それ以来、周辺地域の名称となりました。

雄和のアーティスト紹介

このマップで紹介する雄和では、アーティストが活躍しています。豊かな自然からヒントを得て、様々な制作活動を展開しています。その中の5つの芸術スポットをご紹介します。

● 出羽和紙

ジャンル: 手漉き和紙

手漉き和紙という伝統手法を用いて季節感あふれる作品をつくっています。

[住所] 秋田市雄和椿川字館の下125

[時間] 10~15時

[休み] 土日祝日

● アトリエソウマ・ギャラリー

代表: 相馬大作

ジャンル: 絵画(風景画等)

豊かな自然から得られるインスピレーションを元に作品を描いています。作家のギャラリーも有り、展示即売もしています。また、絵画教室も開催しています。

[住所] 秋田市雄和椿川字堤根44 [電話] 090-6542-6555

[時間] 10~17時 / [休み] 不定休 / [HP] 風景画.com

【戸米川地区について】

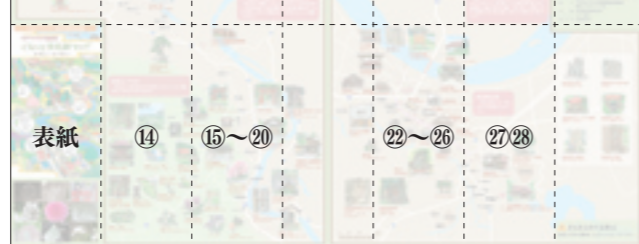
戸米川地区は、旧村の戸賀沢・女米木・相川から一文字ずつを選んで地区名となりました。

時代からといわ
れています。



【種平地区について】

種平地区は、旧村の種沢・平尾鳥から一文字ずつを選んで地区名となりました。



②① 浅野甚兵衛の墓

浅野甚兵衛は、秋田藩士浅野清右衛門の弟。寛文6年(1666)に帰農を決意し、旧下川大内村高尾国見峠の柵の台の開墾を目指しました。さらに、雄物川の川向かいの荒地(現在の向野)開墾に着手しました。以来、20年以上かけて田畑や宅地を完成させ、ため池の築造を計画し、甚兵衛堤を完工させました。



②② 御番所跡

雄和地区を流れる雄物川を大正寺川と呼んでいた藩政時代、亀田藩はこの地に御番所を設置し、雄物川上り船より船荷役銭を徴収していました。これを運上といい、この役所を御番所といいました。

亀田藩岩城領では、浜通りの塩収入銀が8貫(30キログラム)程度に比べ、運上役銀は24貫(90キログラム)に達する高財源であったといわれています。

運上を徴される船舶は100隻を超えるといわれ、沿岸は物資の運輸で賑わいました。



【大正寺地区について】

新波神社はかつて荒波明神といい、大聖不動明王を合祀し大正寺と改号しました。それ以来、周辺地域の名称となりました。

②③ 普門院

普門院は、元々新波の通称親父森にあった観音堂でした。現在地に移転したのは江戸時代中期と考えられます。慶応4年(1868)に戊辰戦争の炎で本堂が焼失しました。その後何度か建て替えられ、現在の本堂は昭和31年に再建したものです。

梵鐘は、戦時下において機転を利かせ、火の見櫓の鐘と取り替えられたため供出を免れた、という逸話があります。



②④ おけさ会館

おけさ会館は、おけさ総踊りのゴール近くに位置し、踊り手の着替えや演奏の地方の練習に活用されています。「大正寺おけさ」は北前船の全盛期(寛政年間から明治中頃)全国に広められた九州ハイヤ系の民踊で、貴重な文化です。毎年8月第3日曜日に、おけさ総踊りや、芸能文化の祭典、花火大会を開催しています。

大正寺おけさは、平成29年に日本遺産に認定された「北前船の寄港地・船主集落」の構成文化財です。



②⑤ 新波神社

新波神社は、社伝では大宝2年(702)創始で石行(旧大正寺小学校地)に荒波明神であったものを現在地に移し、亀田藩の崇敬社となりました。社殿は明治21年から3年がかりで改築されました。



神社の屋根下にはめ込んである力士は、全部で8体、満身の力を誇示するような特異の風体で、重い屋根を支えています。拝殿正面の竜の彫りものは、完成まで100日を要したと伝えられています。

本殿の基礎は、釘を用いていない腰組み様式で県内でも珍しいものです。

境内一面の苔庭も見どころ。

本殿の腰組み細工基礎建築は市指定有形文化財。境内は市指定名勝。建物は登録有形文化財

②⑥ 新波神社の力士

新波神社の力士は、神社の入母屋屋根下の四ツ隅に位置し、本殿に4体、拝殿に4体の計8体で屋根を支えています。それぞれ違う表情をしているので、お気に入りを探してみても? 市指定有形文化財



②⑦ 竹の花の一本杉

竹の花の一本杉は、竹の花運動公園の入口近く、道路の傍らに一本だけ生えています。

樹高25m、幹回りは2.4mほどあります。寛政年間(1789~1801)に本荘市赤田(現在の由利本荘市)の長谷寺を開山させた是山和尚が植えたものと伝えられています。水陸の交通の要所にあり、新波繁栄の証として愛されています。市指定天然記念物



②⑧ 旧雄和ふるさとセンター

旧雄和ふるさとセンターは、雄和地区の民俗資料などを収蔵しています。平成25年に閉館しましたが、3日前までに文化振興課(☎018-888-5607)に予約すれば観覧することができます。



●アトリエソウマ・ギャラリー

代表:相馬大作

ジャンル:絵画(風景画等)

豊かな自然から得られるインスピレーションを元に作品を描いています。作家のギャラリーも有り、展示即売もしています。また、絵画教室も開催しています。

〔住所〕秋田市雄和椿川字堤根44 〔電話〕090-6542-6555 〔時間〕10~17時 / 〔休み〕不定休 / 〔HP〕風景画.com

●陶いやしろち

ジャンル:陶芸

毎日の暮らしに寄り添う器から躍動感ある造形の器まで、多彩な作品をつくっています。

〔住所〕秋田市雄和椿川字中村20-16 〔電話〕090-6455-7668 〔時間〕10~16時 〔休み〕不定休

●瑠璃窯

ジャンル:陶芸

日々の暮らしの中に、彩りを添える作品づくりをしています。体験教室のほか、出張教室も行っています。

〔住所〕秋田市雄和椿川関田82 〔電話〕090-8614-1508 〔時間〕10~17時 〔休み〕不定休

●アンティークス・ゆい

ジャンル:スタンドグラス制作、スタンドグラス教室

・スタンドグラスパネル、スタンドグラスランプの制作
・フュージングによるガラス小物の制作(皿、アクセサリーなど)
・スタンドグラス教室も開催しています。

〔住所〕秋田市雄和椿川字館の下70-7 〔電話〕018-886-9116 〔時間〕11~17時 / 〔休み〕火・日